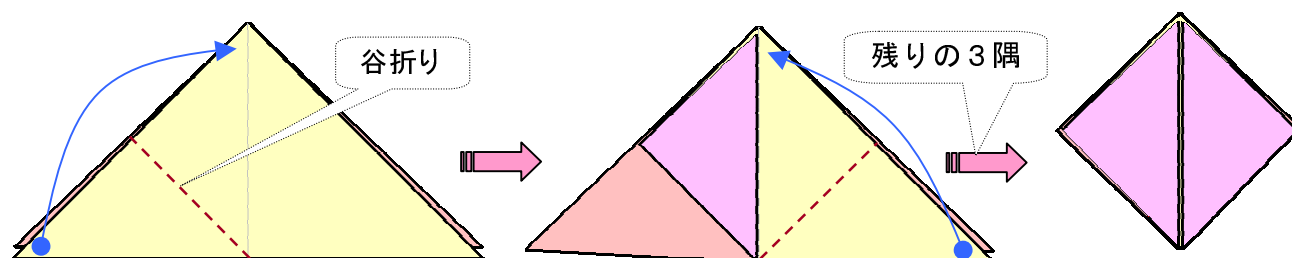


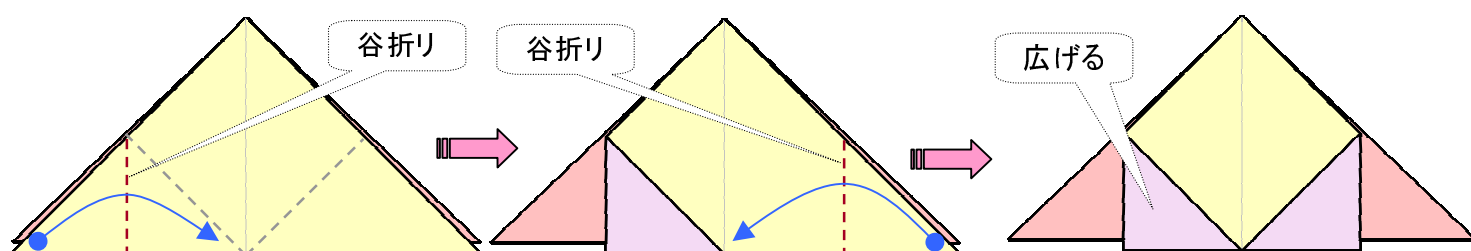
立体バラの折り方(1枚もの 単純バラ)

三角折りの折り方については省略していますので、基本的な折り方を参考にしてください。

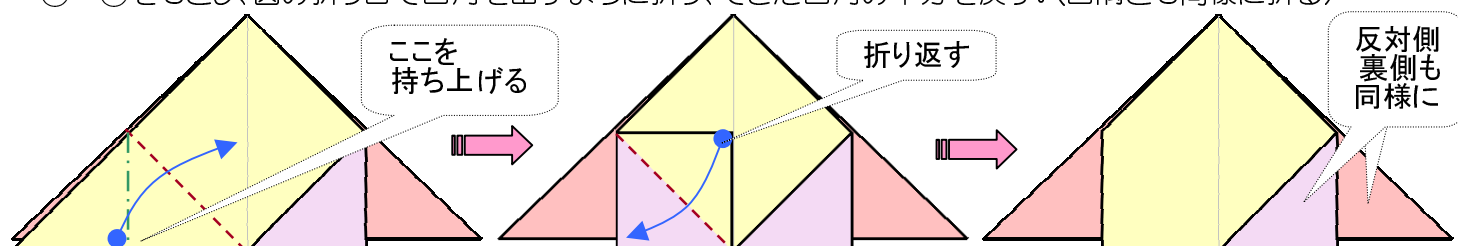
- ① 「三角折り」を準備し、図のように谷折りで三角の端を頂点に合わせる。(裏側も)



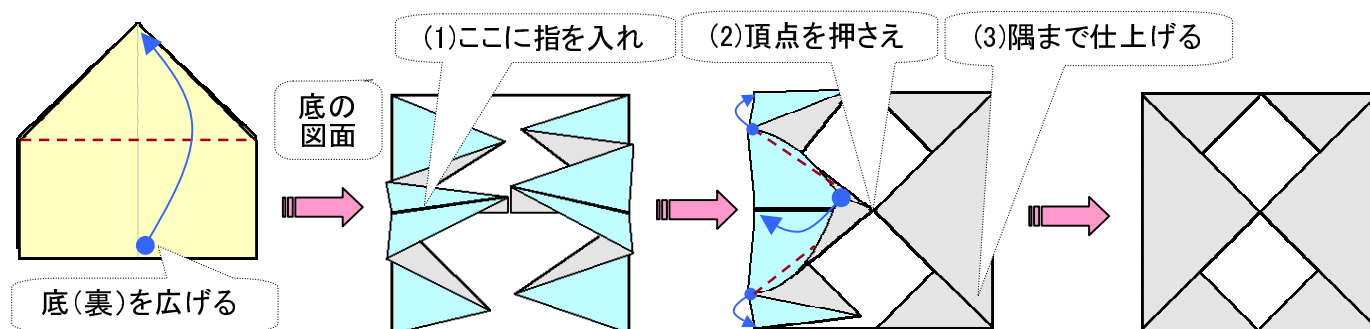
- ③ もとの三角折りまで戻し、次いで下方の三角を半分に折る。(ここでは②は欠番とする)



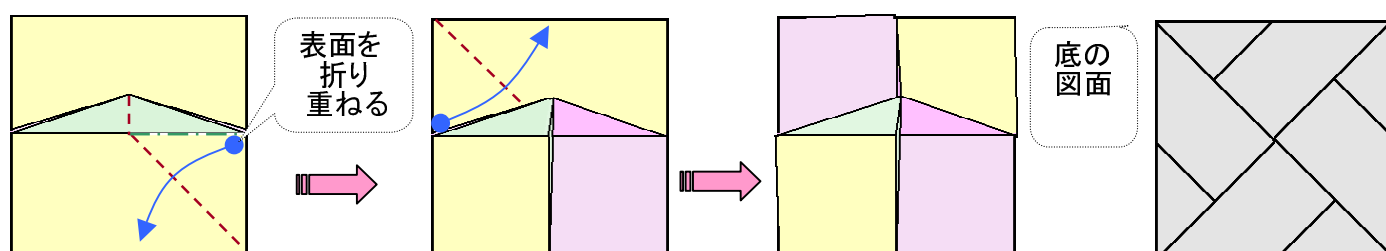
- ④ ③をもどし、図の折り目で四角を出すように折り、できた四角の半分を戻す。(四隅とも同様に折る)



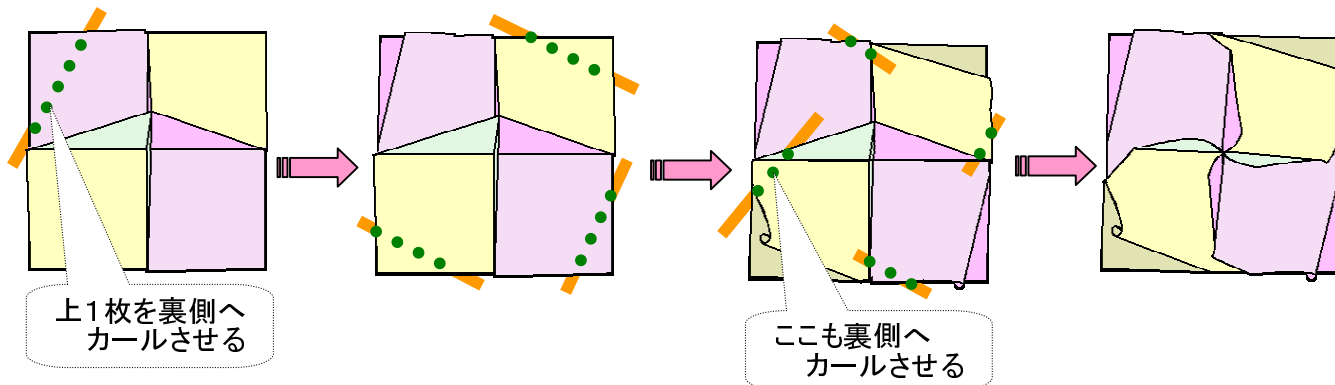
- ⑤ 三角形の部分を谷折りで底を広げると図のようなギザギザが出てくるので、真ん中のヒダの中に指を入れしわが出ないように少しずつ広げ、図のように(作業は(1)(2)(3)で)底を仕上げる。



- ⑥ 表側にして、真ん中の三角形をしっかりと起こす。三角形の右の山の二重になっている手前の山を図の方向(時計回り)に持ち上げるように起こす。同様に左の後ろ側の山を図の方向に起こすと、十字の山ができる。確認のため、底の爪状の部分が図のようになっていないときは、爪を素直な方向に伸ばしておく。



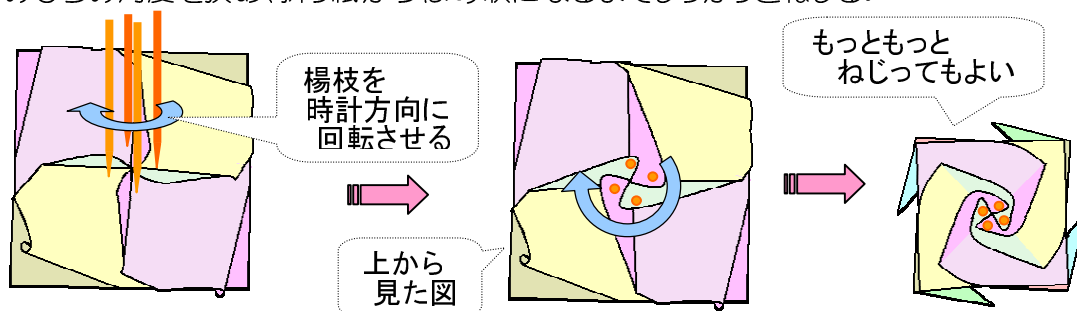
- ⑦ 竹串を使い、四角の先端の上の1枚(下は巻かない)を図のように裏側へカールさせる(4つの先端とも)。さらに、山の麓にかかる図の場所も裏側にカールさせる。(4箇所とも)。



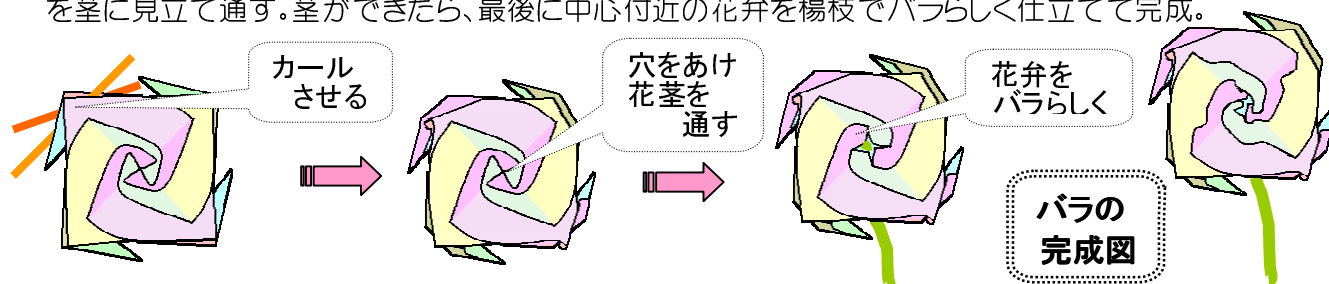
- ⑧ 楊枝4本を図のように輪ゴムで止めてバラ製作用の工具を作る。



- ⑨ ⑦の折り紙の底面を手で受け、⑦で作った楊枝を山の外側の各四角側に図のようにさし、手のひらで底面が回らないようにして、楊枝を時計方向にねじる。最初は回りにくいがゆっくりと丁寧に回す。ねじり始めたら手のひらの角度を狭め、折り紙がつぼみ状になるまでしっかりとねじる。

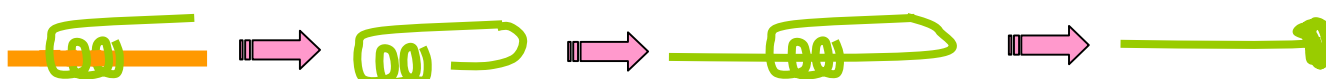


- ⑩ 楊枝を刺したまま、外側に出た八枚の四角い出っ張りを花弁に見立て、竹串を使い裏側にカールさせる。次いで楊枝を抜き、中心の先端にハサミで切り取り穴をあけ、園芸用の針金(70cm程度の長さが適当)を茎に見立て通す。茎ができれば、最後に中心付近の花弁を楊枝でバラらしく仕立てて完成。



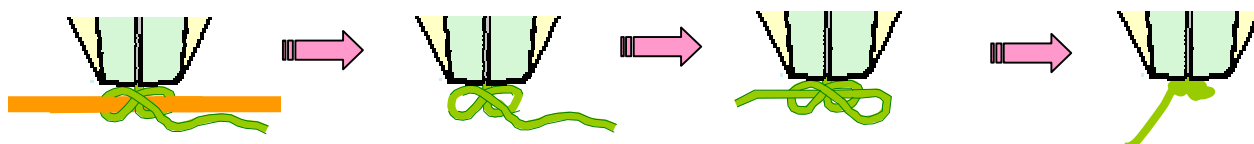
参考:花茎の先端の留め玉の作り方

栽培用の平針金を竹串に2~3回巻きつけ、竹串を抜き、巻きつけた針金の中心の穴に通す。



参考:花茎の留め玉の作り方(花の底面側)

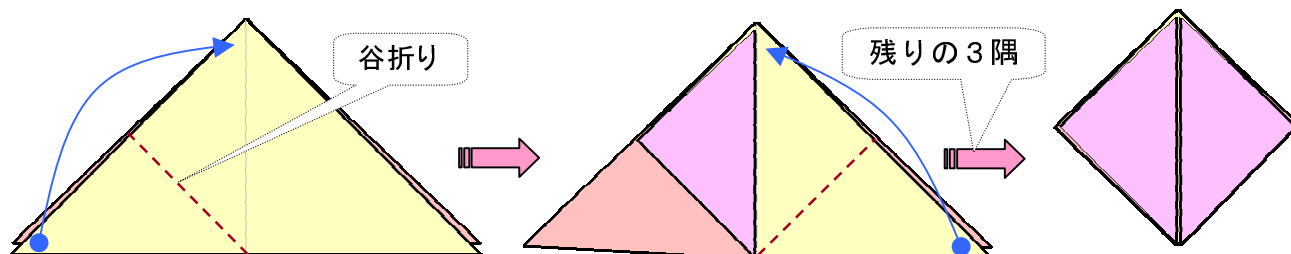
花の底から出てきた針金を図のように竹串に巻き、竹串を抜き、針金を抜いた穴に通し締めつける。



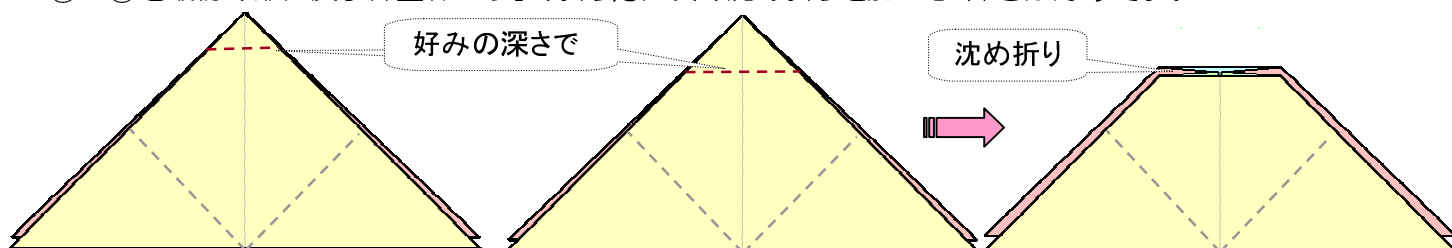
きれいな立体バラの折り方(1枚もの)

立体バラの内側に花弁を加えることで、少し豪華に見えます。 折り方は、最初の方に「沈め折り」の1行程が入りますが、あとはほとんど同じです。「沈め折り」ページの最後に掲載)

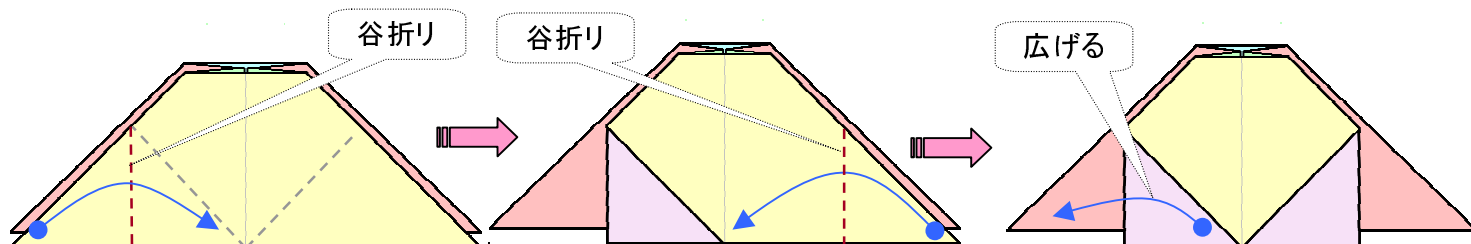
- ① 「三角折り」を準備し、図のように谷折りで三角の端を頂点に合わせる。(裏側も)



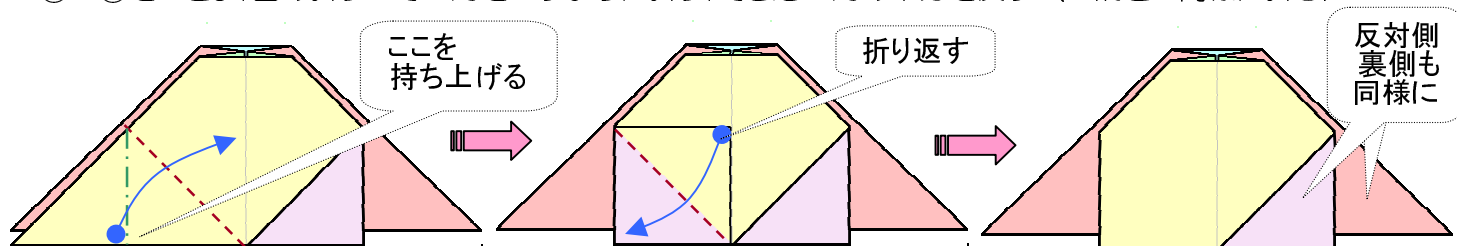
- ② ①を最初の形に戻し、「立体バラ」の折り方に次の沈め折りを加える。深さは好みでよい。



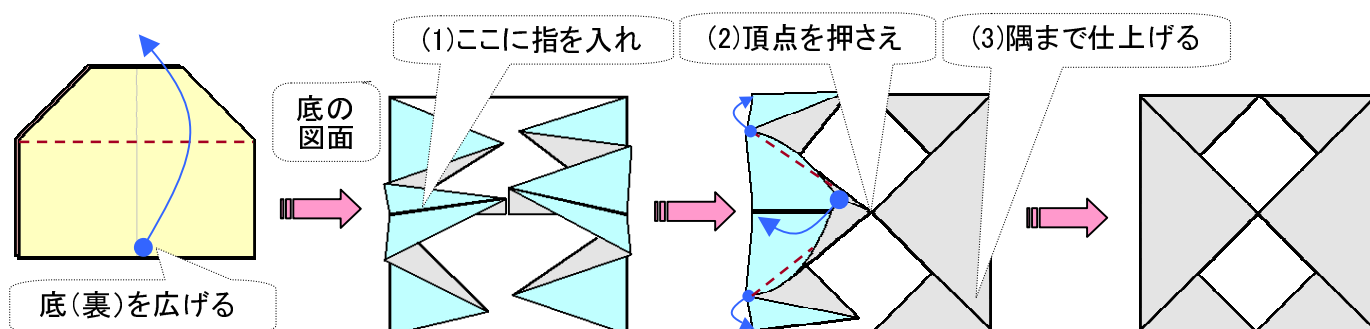
- ③ 次に下方の三角を半分に折る。(4隅ともに)



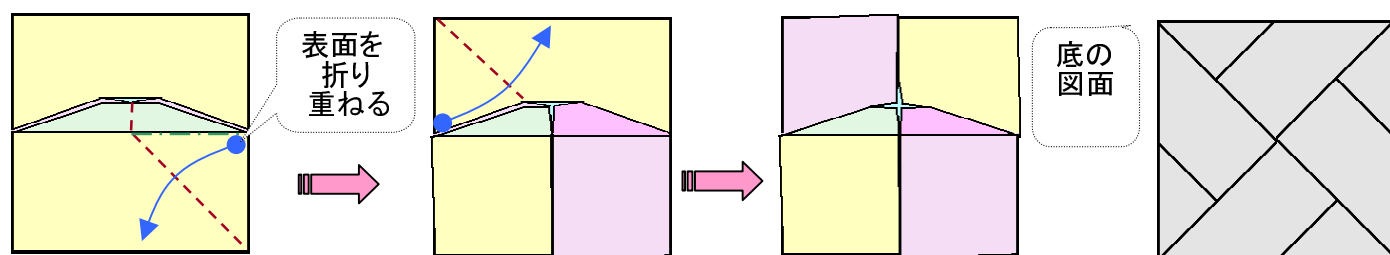
- ④ ③をもどし、図の折り目で四角を出すように折り、できた四角の半分を戻す。(四隅とも同様に折る)



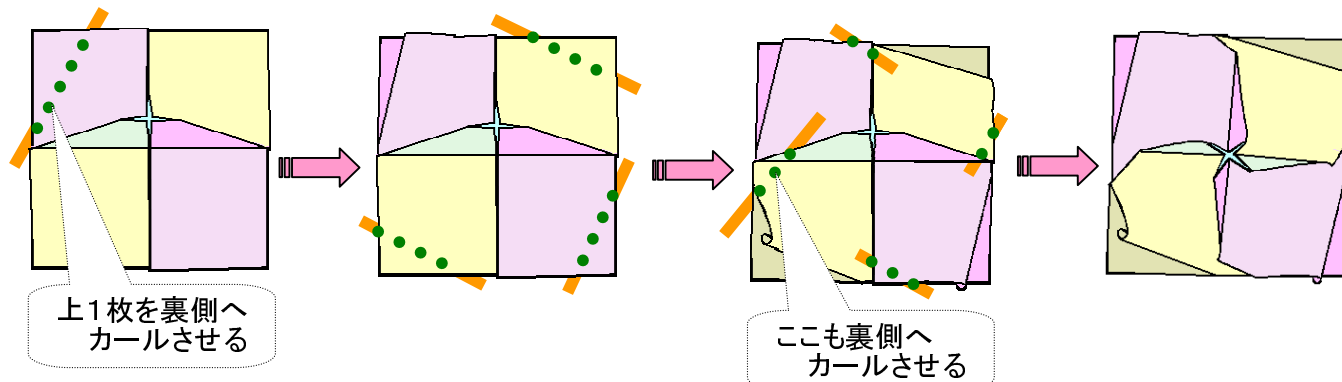
- ⑤ 三角形の部分を谷折りで底を広げると図のようなギザギザが出てくるので、真ん中のヒダの中に指を入れしわが出ないように少しずつ広げ、図のように(作業は(1)(2)(3)で)底を仕上げる。



- ⑥ 表側にして、真ん中の三角形をしっかりと起こす。三角形の右の山の二重になっている手前の山を図の方向（時計回り）に持ち上げるように起こす。同様に左の後ろ側の山を図の方向に起こすと、十字の山ができる。確認のため、底の爪状の部分を図のようになっていないときは、爪を素直な方向に伸ばしておく。



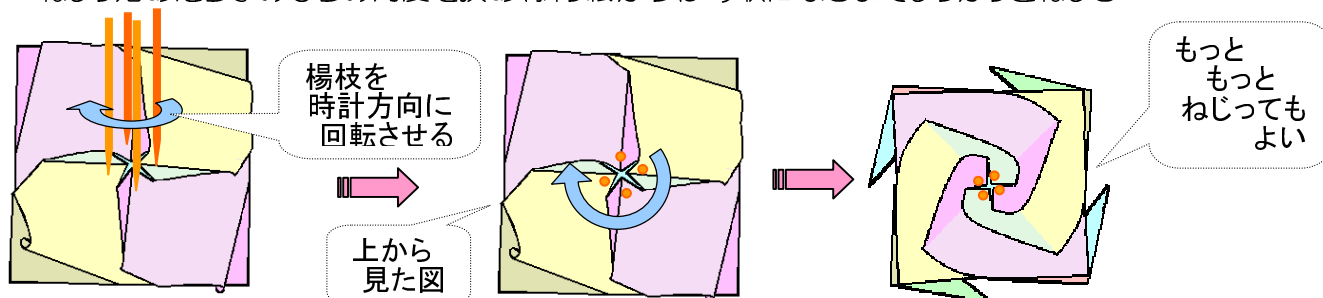
- ⑦ 竹串を使い、四角の先端の上の1枚（下は巻かない）を図のように裏側へカールさせる（4つの先端とも）。さらに、山の麓にかかる図の場所も裏側にカールさせる。（4箇所とも）。



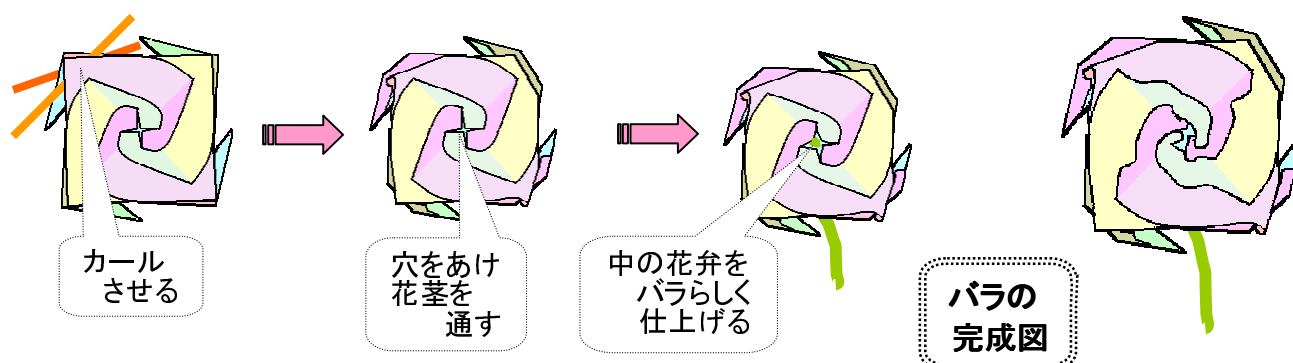
- ⑧ 楊枝4本を図のように輪ゴムで止めてバラ製作用の工具を作る。



- ⑨ ⑦の折り紙の底面を手で受け、⑦で作った楊枝を山の外側の各四角側に図のようにさし、手のひらで底面が回らないようにして、楊枝を時計方向にねじる。最初は回りにくいがゆっくりと丁寧に回す。ねじり始めたら手のひらの角度を狭め、折り紙がつぼみ状になるまでしっかりとねじる。



- ⑩ 楊枝を刺したまま、外側に出た八枚の四角い出っ張りを花弁に見立て、竹串を使い裏側にカールさせる。次いで楊枝を抜き、中心に穴をあけ、園芸用の針金を茎に見立て通す。茎ができれば、最後に中心付近の花弁を楊枝でバラらしく仕立てて完成。

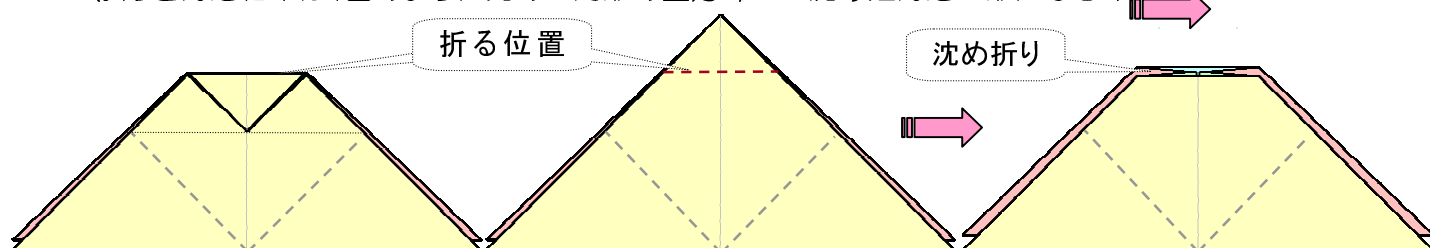


豪華な立体バラの折り方(2枚もの)

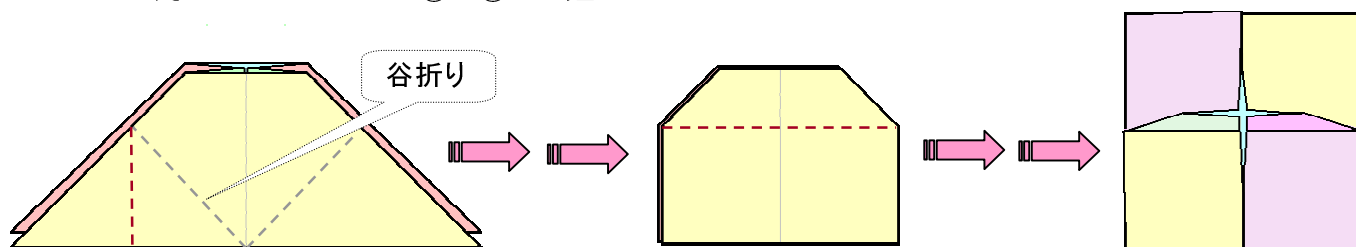
きれいな立体バラの外側に花弁を重ねさらに豪華なバラが作れます。折り方は、ほとんど同じです。

1枚目のバラは、針金を通す前まで作っておきます。2枚目の外側の花弁については、同色の紙を使い、同様に折りますが、②の「沈め折り」の深さだけ次の(2)ようにしてください。

- (2) 2枚目の沈め折りの深さは、1枚目の花の台座となるよう、図のように左右の三角形の頂点と同じにする。
(折りこんだ結果は、図のように元の三角形の上方 1/4 が沈み込んだ台形になる。)

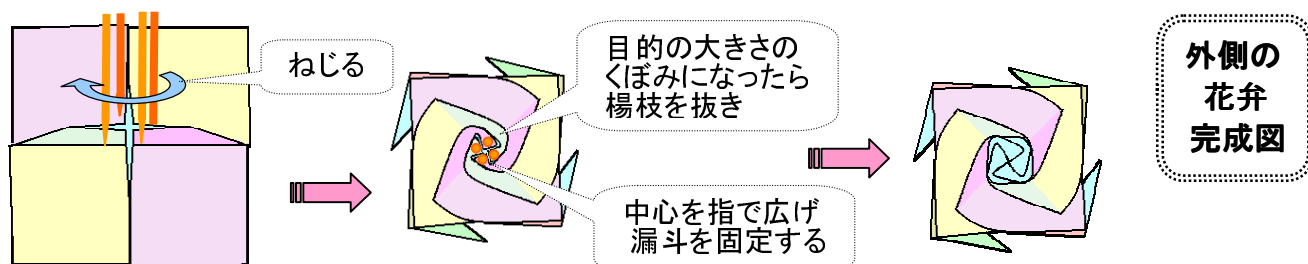


以降は、同じ折りかたで、ほぼ③～⑦まで進めてください。

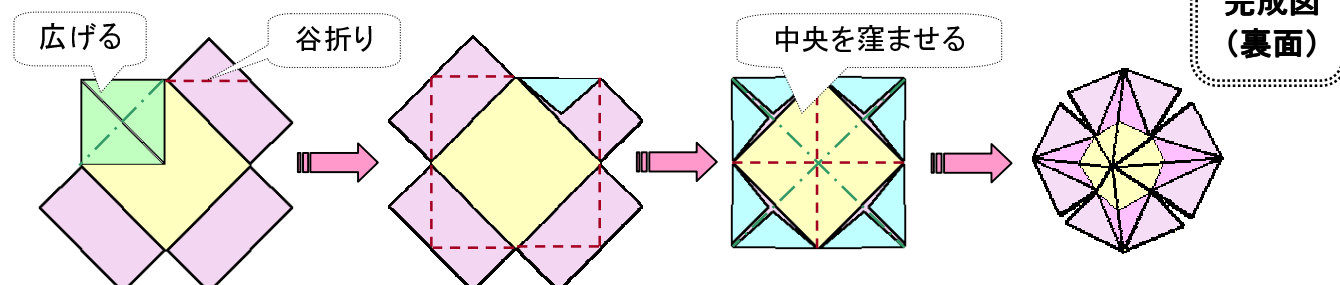


この2枚目のバラは、1枚目の花がすっぽり収まる台座のようにするため、次の(19)で折る。(⑨の代わり)

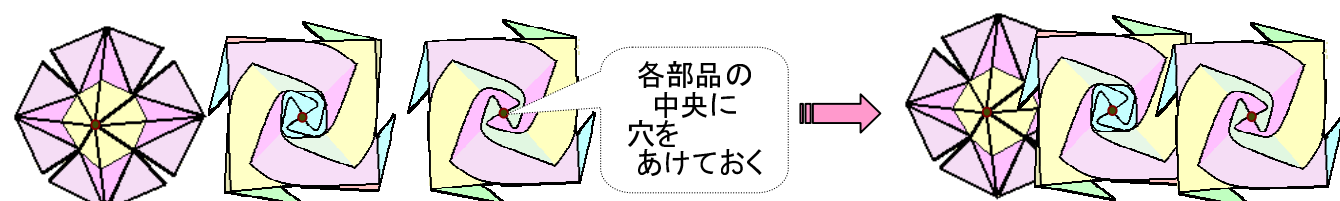
- (19) ⑨と同様に楊枝を入れ、ある程度の絞り込みで止め、中心の十字の部分指で広げ周囲の花弁に押し付け固定する。(固定するために、中心部分に折り目をつけても良い)



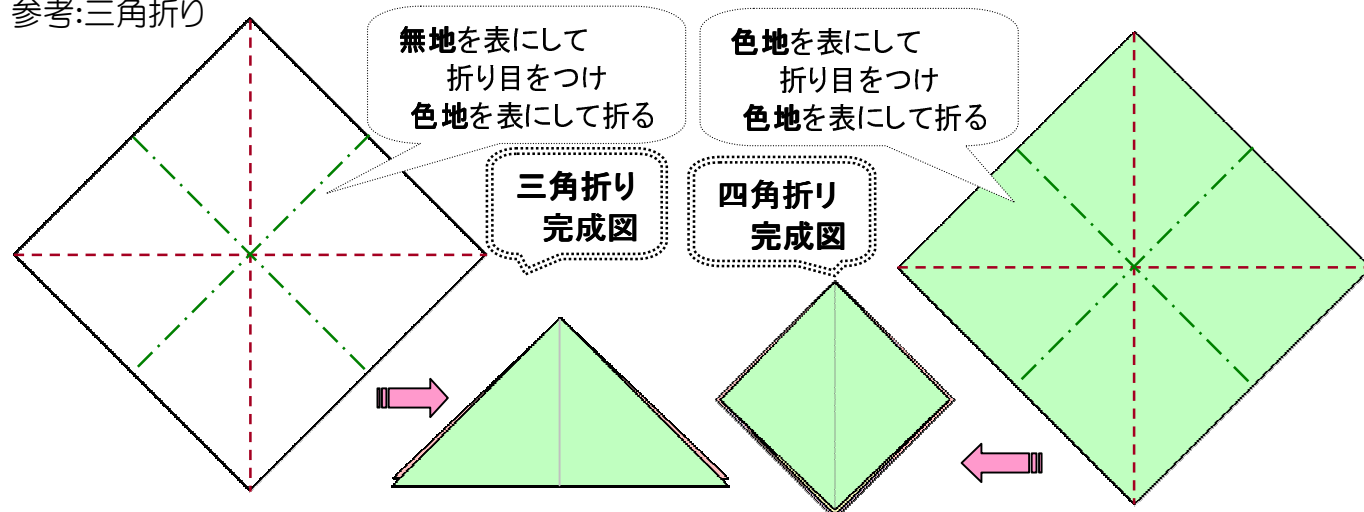
- (20) さらに、バラの花にがくをつけるなら、「奴さん」折りの上半身から顔の部分も広げ、さらに図の通りに折り目をつける。(がくは無くても良い)



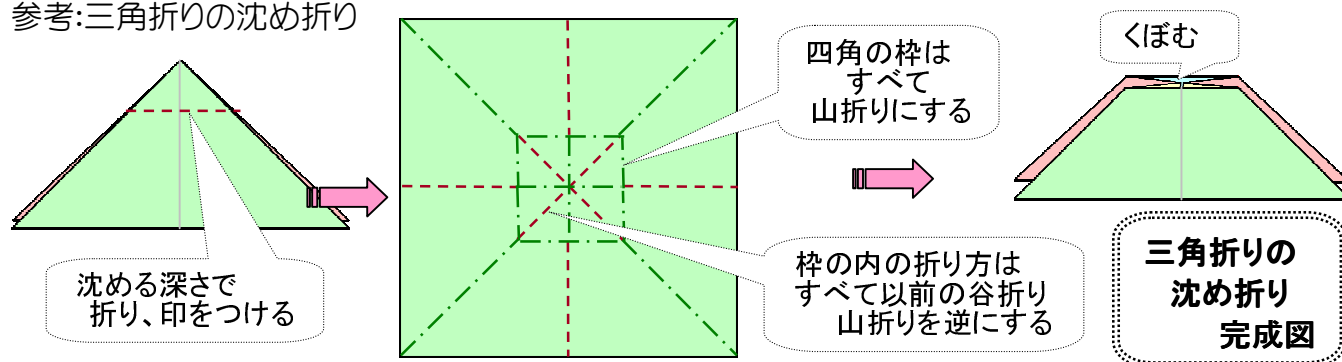
- (21) 豪華なバラの部品がそろったので、各部品の中央に通し穴をあけ、針金を通し、完成させ。



参考:三角折り



参考:三角折りの沈め折り



参考:奴さん折り(ただし、袴折りまで)

- ① 折り紙を準備し、色面を「裏」にして対角線の隅と隅を合わせ、中心に印をつける。
次いでもとに広げ、色面を裏にしたまま、中心の目印に向け四隅を折ったのが一段目完成図である。

